

[First Hit](#)[Previous Doc](#)[Next Doc](#)[Go to Doc#](#)

Generate Collection

Print

L11: Entry 3 of 5

File: JPAB

May 22, 1986

PUB-NO: JP361103816A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 61103816 A

TITLE: CREAM COMPOSITION

PUBN-DATE: May 22, 1986

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

NAGAOKA HITOSHI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

NAGAOKA HITOSHI

APPL-NO: JP59225424

APPL-DATE: October 26, 1984

INT-CL (IPC): A61K 7/00

ABSTRACT:

PURPOSE: A cream composition that contains, as an active ingredient, an extract from mycelia of SHIITAKE mushrooms, thus showing good recovering effect for roughened skins, rash or dried skin and having the action to inhibit the formation of melanine, lighten the color of deposited melanine and the antibacterial action.

CONSTITUTION: A cream composition that contains an extract from SHIITAKE mushroom mycelia. The extract shows actions not only to inhibit the formation of melanine, but also lighten; the color of melanine. The extract is obtained by inoculating mycelia of SHIITAKE mushrooms in a solid culture medium mainly containing bagasse, loosening the medium, mixing the medium with water, when needed, with enzymes such as protease, extracting crushed solid medium and heating it up to 95°C to effect deactivation of enzymes and sterilization. The extenders into a power and the power is added together with water or an organic solvent to a cream base.

COPYRIGHT: (C) 1986, JPO&Japio

[Previous Doc](#)[Next Doc](#)[Go to Doc#](#)

[First Hit](#) [Previous Doc](#) [Next Doc](#) [Go to Doc#](#)

End of Result Set



Generate Collection

Print

L1: Entry 2 of 2

File: DWPI

May 22, 1986

DERWENT-ACC-NO: 1986-172172

DERWENT-WEEK: 198627

COPYRIGHT 2004 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Cream compsn. with melanin formation-inhibiting effect - contains Cortinellus shiitake mycelium extract

PATENT-ASSIGNEE: NAGAOKA H (NAGAI)

PRIORITY-DATA: 1984JP-0225424 (October 26, 1984)

Search Selected

Search ALL

Clear

PATENT-FAMILY:

	PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
<input type="checkbox"/>	JP 61103816 A	May 22, 1986		005	
<input type="checkbox"/>	JP 93021084 B	March 23, 1993		004	A61K007/00

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DATE	APPL-NO	DESCRIPTOR
JP 61103816A	October 26, 1984	1984JP-0225424	
JP 93021084B	October 26, 1984	1984JP-0225424	
JP 93021084B		JP 61103816	Based on

INT-CL (IPC): A61K 7/00

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 61103816A

BASIC-ABSTRACT:

Cream compsn. contains a Cortinellus shiitake mycelium extract as melanin formation-inhibiting component and as melanin colour-lightening accelerator.

Pref. extract is obtd. by extracting mycelium-contg. solid medium with water or a mixt. of water and organic solvent (e.g. alcohol). Extract contains various aminoacids and vitamins.

ADVANTAGE - Compsn. has strong high antibiotic activity, and improves skin roughness after sunburn.

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 61103816A

EQUIVALENT-ABSTRACTS:

CHOSEN-DRAWING: Dwg.0/0

DERWENT-CLASS: D16 D21

CPI-CODES: D05-A04C; D08-B09A;

[Previous Doc](#)

[Next Doc](#)

[Go to Doc#](#)

⑤ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和61年(1986)5月22日

A 61 K 7/00

7306-4C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全5頁)

⑭ 発明の名称 クリーム組成物

⑮ 特 願 昭59-225424

⑯ 出 願 昭59(1984)10月26日

⑰ 発 明 者 長 岡 均 我孫子市寿2-22-13

⑱ 出 願 人 長 岡 均 我孫子市寿2-22-13

⑲ 代 理 人 弁理士 鈴木 俊一郎

明 細 書

1. 発明の名称

クリーム組成物

2. 特許請求の範囲

雑菌菌系体エキスを、メラニン生成抑制成分およびメラニン淡色化促進成分として含有することを持徴とするクリーム組成物。

3. 発明の詳細な説明

発明の技術分野

本発明は、クリーム組成物に関し、さらに詳しくは、皮膚に各種の栄養成分を与えて皮膚の新陳代謝を促進し、皮膚表面に滑らかさおよび潤いを与えるというクリームの本来の目的に加えて、メラニンの生成を抑制するとともにすでに沈着したメラニンの淡色化を行ないうるクリーム組成物に関する。

発明の技術的背景ならびにその問題点

皮膚は、表皮、真皮および皮下組織からなり、さまざまな機能を有しており、人体の外皮として体内の諸器官を外界から保護する保護作用、知覚

作用、体温調節作用、物質代謝作用などの働きをしている。このような皮膚に対して、外界から直接皮膚に有害な刺激が加わることなどにより、皮膚表面に荒れが生じ、いわゆる肌あれ、かぶれ、ただれなどと称される症状が表われることがある。あるいはまた、皮膚の保湿機能が低下することによって、肌が乾いてカサカサな状態になることもある。

このような荒れた状態にある皮膚に対してクリーム組成物を適用することが広く行なわれている。クリーム組成物は皮膚特にその最外層である角質層部分に適用され、皮膚の保湿、皮膚の血行促進、皮膚の洗浄などのために用いられている。上記のような皮膚用化粧クリームのほか、特殊な目的をもったクリーム組成物も開発されている。このような特殊な目的を有するクリーム組成物としては、たとえば皮膚の適度な日やけを防止するための紫外線防御クリーム、腋毛を脱毛するためのヘアリムーバー、腋臭などを防止するためのデオドラントクリーム、ひげそりあとに塗布するシェー

ピングクリーム、あるいは皮膚中でのメラニンの生成を抑制したりまたはすでに沈着したメラニンの淡色化に作用しうるような美白クリームなどが挙げられ、それぞれの目的に応じて各種の薬剤がクリームベース中に添加されている。

発明の目的およびその概要

本発明は、肌あれ、かぶれ、ただれ、肌の乾燥などの症状に対してより優れた効果を有するとともに、メラニンの生成を抑制するとともにすでに沈着したメラニンの淡色化に作用しうるクリームを開発すべく鋭意研究した結果、椎茸菌系体エキスをクリーム組成物中に含有せしめることによって得られるクリーム組成物を皮膚に適用すると、上記の症状が著しく速やかに回復するとともにメラニンの生成が抑制されかつすでに沈着したメラニンの淡色化が促進されることを見出して本発明を完成するに至った。

すなわち、本発明に係るクリーム組成物は、クリームベース中に椎茸菌系体エキスを、メラニン生成抑制成分およびメラニン淡色化促進成分として

0.7gの必須アミノ酸であるスレオニンが含まれているのに対し、椎茸子実体では子実体100g中に0.8gのスレオニンが含まれているにすぎない。

この椎茸菌系体エキスは、たとえばバカスを基材とする固体培地に椎茸菌を接種し、次いで菌系体を増殖して得られる菌系体を含む固体培地を解凍し、これに水ならびに必要なに応じてセルラーゼ、プロテアーゼまたはグリコシターゼなどの酵素を添加した後、この固体培地を粉砕および攪拌しながら有効成分を抽出し、次いで95℃までの温度に加熱して酵素の失活ならびに滅菌することによって得られる。

菌系体を含む固体培地を解凍する時期としては、固体培地中で菌系体が十分成長し、子実体発生前または子実体発生前直後が好ましい。

椎茸菌系体エキスはクリームベース中に添加されるが、クリームベースとしては従来知られているものを広く用いることができる。クリームベースは、油型、W/O型、O/W型、起油型のい

ずれでもよい。油性分としては、ミツロウ、カカオ脂、ステアリン酸、ラノリン、オリーブ油、ツバキ油、固形パラフィン、ワセリン、流動パラフィン、シリコンオイル、合成エステル油、合成ポリエ

テル油などが用いられる。また水性分としては、グリセリン、プロピレングリコール、ソルビット、ポリエチレングリコールなどの保湿剤、クインスードゴム、トラガントゴム、アルギン酸ナトリウム、カルボキシメチルセルロースナトリウム、ポリビニルアルコールなどの粘着質、エチルアルコール、イソプロパノールなどのアルコール類および水などが用いられる。

また本発明に係るクリーム組成物は、上記のような症状の回復ならびにメラニン生成抑制効果に加えて、優れた抗菌力を有することが見出された。

発明の具体的説明

クリーム組成物中に配合される椎茸菌系体エキスは、バカスを基材とする固体培地上で椎茸菌を増殖させて得られる椎茸菌系体を含む固体培地から各種有効成分を、水または、水とアルコールなどの有機溶媒との混合溶媒で抽出して得られた抽出液である。この椎茸菌系体エキス中には、種々のアミノ酸類、ビタミン類、レンチノールなどが多量に含有されている。

なお、椎茸菌系体エキス中には、椎茸エキスと比較して、極めて多量の栄養成分ならびに有効成分が含有されていることが確かめられている。たとえば、椎茸菌系体では菌系体100g中に2、

れでもよい。油性分としては、ミツロウ、カカオ脂、ステアリン酸、ラノリン、オリーブ油、ツバキ油、固形パラフィン、ワセリン、流動パラフィン、シリコンオイル、合成エステル油、合成ポリエテル油などが用いられる。また水性分としては、グリセリン、プロピレングリコール、ソルビット、ポリエチレングリコールなどの保湿剤、クインスードゴム、トラガントゴム、アルギン酸ナトリウム、カルボキシメチルセルロースナトリウム、ポリビニルアルコールなどの粘着質、エチルアルコール、イソプロパノールなどのアルコール類および水などが用いられる。

また、クリームベース中に必要に応じて、通常クリームベース中に用いられる成分たとえば香料、防腐剤（塩化ベンザルコニウムなど）、酸化防止剤、色素などを添加することができる。

椎茸菌系体エキスが添加されるクリーム組成物は、たとえばエモリエントクリーム、マッサージクリーム、クレンジングクリーム、メイクアップクリーム、ベイスクリーム、プリメイクアップク

リーム、サンスクリーンクリーム、デオドラントクリームなどの広範囲のタイプのクリームとなりうる。

また、椎茸菌系体エキ스는優れた抗菌力を有するため、このエキスを含むクリーム組成物もまた優れた抗菌力を有する。

本発明によるクリーム組成物は、椎茸菌系体エキスをクリームベース中に添加し含有させる以外は、通常のクリーム組成物の一般的製造法によって製造することができる。

なお、椎茸菌系体エキスをクリームベースに添加するに際して、椎茸菌体エキスを溶液のまま水相として利用してもよく、また場合によっては、このエキスを付形剤を加えて粉末とし、この粉末状の椎茸菌系体エキスを水あるいは有機溶媒とともにクリームベースに添加してもよい。

なお本発明に係るクリーム組成物は、椎茸菌系体エキ스가飲用できる程度に安全であって皮膚に対する刺激性もほとんどないため、極めて安全性に優れている。

色素、香料

適量

このクリーム組成物を、1日朝夕2回、ヒトの皮膚（肩部）にできた日焼けによるシミ部分に4週間にわたって塗布した。

このクリーム組成物の塗布によるメラニン淡色化促進効果の評価を、パネラーによる他覚的評価法、自覚的評価法および測色による客観的評価法（日本電色工業製測色色差計 COLOR TECH 7800 使用）によって行なった。なお、この際メラニン沈着の強弱とともにメラニン沈着の大きさの評価も行なった。

その結果、自覚的にも他覚的にもメラニン淡色化が促進されることが判明した。また、測色による客観的評価法によっても、明らかにこのクリーム組成物を塗布することによって、メラニンの淡色化が促進されていることがわかった。

以下に測色による客観的評価法によるデータを示す。

皮膚の色は、色素沈着がなく紫外線による日焼けがほとんど認められない肩部と、紫外線による

発明の効果

本発明に係るクリーム組成物は、椎茸菌系体エキスを含んでいるので、以下のような効果が認められる。

(a) メラニン生成抑制ならびにメラニン淡色化が認められるクリーム組成物が得られる。

(b) 優れた抗菌力を有するクリーム組成物が得られる。

(c) 肌あれ、かぶれ、肌の乾燥などに対して優れた回復効果を有するクリーム組成物が得られる。

以下、本発明を実施例により詳細に説明するが、本発明はこれらの実施例に限定されるものではない。

例 1

以下の各成分を含有するクリーム組成物を調製した。

ミツロウ	10重量部
流動パラフィン	50重量部
椎茸菌系体エキス	35重量部
塩化ベンザルコニウム	0.05重量部

色素沈着が認められる肩部とで測定し、胸部と肩部との皮膚色の明度差で示す。この胸部および肩部に、本発明に係るクリーム組成物を塗布した場合と、対照区として従来優れたメラニン淡色化効果を有することが証明されているアスコルビン酸を含むクリーム組成物を同様に塗布した場合とで比較した。

その結果を表1に示す。

(以下余白)

表 1

初期の肩部で

の日晒け状態 適用前 2 週目 4 週目

A 氏	淡褐色でやや	対照区	6.8	6.4	5.0
	大きめに散在	本発明区	6.4	11.4	4.2
B 氏	茶色でやや	対照区	11.9	9.9	7.5
	大きめに肩口	本発明区	9.6	9.5	8.3
	に散在				
C 氏	わずかに茶色	対照区	7.7	5.7	6.9
	肩口だけ	本発明区	6.0	5.3	2.9
	小さく点在				

(以下余白)

この結果より、本発明に係るクリーム組成物の美白効果は、アスコルビン酸(ビタミンC)を含むクリーム組成物とほぼ同様であることがわかった。

次に本発明に係るクリーム組成物中に添加される椎茸菌系体エキスの抗菌力について示す。まず

表 2

試 験 菌	MIC (%)	
	メチルパラベン	椎茸菌系体エキス
C. albicans IFO-1594	0.2	>3
St. aureus 209p	>0.2	1
M. lysodeikticus ATCC4698	>0.2	0.25
Ps. aeruginosa ATCC10145	>0.2	0.5
E. coli K-12 OUT8401	0.025	1
S. typhimurium	0.05	1
Kl. pneumoniae OUT8017	0.2	1
Ser. marcescens	0.1	1
Asp. niger IFO4407	0.05	>3

表2より、本発明に係るクリーム組成物は、優れた抗菌性を有していることがわかる。

なお本発明に係るクリーム組成物を皮膚に毎日適用してもかぶれなどの刺激性は全く認められなかった。

例 2

以下の各成分を含有するクリーム組成物を調製した。

パラフィン	4.0重量部
微結晶ワックス	6.0重量部
ミツロウ	6.0重量部
ワセリン	14.0重量部
流動パラフィン	42.5重量部
ソルビタンセスキオレイン酸 エステル	3.7重量部
ポリオキシエチレンソルビタン	0.8重量部
モノオレイン酸エステル(20E.O)	
椎茸菌系体エキス	25.0重量部
塩化ベンザルコニウム	0.1重量部
香料、色素	適量

例 3

以下の各成分を含有するクリーム組成物を調製した。

ステアリン酸	2.0重量部
ステアリンアルコール	7.0重量部
還元ラノリン	2.0重量部
スクワラン	5.0重量部
オクチルドデカノール	6.0重量部
ポリオキシエチレンセチル エーテル(25E.O)	3.0重量部
親油型モノステアリン酸 グリセリン	2.0重量部
椎茸菌系体エキス	6.7重量部
プロピレングリコール	5重量部
色素、香料、酸化防止剤	適量